



Q 農業振興の支援策とは A 動向を注視し研究する



日向 清一 議員
(春緑クラブ)

Q1 現在の原油価格の高騰・各種飼料・肥料・生産資材の高騰がいつこうにとまらない状況にあり生産者は価格転嫁ができず経営悪化の進行は深刻であり、かつて経験したことがない危機的な状況に直面しております。

安全で安心な食料を供給し生産者の所得の向上と安定を確保し経営を維持するために村としての支援策について、次の4点を伺います。

- ① 農業生産コストの異常な高騰による村独自の支援策は。
- ② 中核農家の育成・集落営農の実現と推進に向けた新たな支援策の考えは。
- ③ 野菜重点作物の設定と今後の推進・振興の考えは。
- ④ 農作業労賃設定検討委員会の実態・設定根拠と今後の見直しの考えは。



▲農家所得の向上をめざして

A1 ① 国・県の農業政策を注視し動向をみきわめながら総合的に対応してまいります。

また、肥料の高騰については、耕畜連携の観点から、村内畜産農家や公共施設等で生産される有機肥料を活用普及するよう仲介・斡旋をおこないます。

② 農家個々の自助努力だけでは解決できない課題を「ゆい」などの持続的で安定的な農業経営に資するよう調査研究を進めてまいります。

③ 19年度に定期見直しされた滝沢農業振興地域整備計画で定められており、現在、重点品目として、大根・キャベツ・ほうれんそうの3品目を指定、推進品目として、きゅうり・トマト・ミニトマト・ねぎ・ピーマン・すいかの6品目を指定しています。

農家の生産施設整備・生産管理機器の導入を積極的に図り、新岩手農協と連携しながら、農家所得の向上をめざします。

また、高収益が見込まれる「夏どりいちご」など新しい品種の導入なども検討してまいります。

④ 農家代表・生産組合代表・農協・識見を有する方々で検討し農家に周知しております。

労賃の見直しについては、標準額は永い歴史を持ち委託側・受託側が議論を重ね、互いの妥協点を見出し設定されてきたものであります。

標準額を基準に委託側と受託側の双方の話し合いを進めていたとき、年度途中での改定は考えてないところであります。



Q クマ被害と共存施策は A 人的被害防止を最優先



▲クマの被害に遭ったデントコーン畑

Q1 ① 隣接市町村を含めた、クマの生育分布・頭数はどう掌握しているのか。

② 農作物の被害状況と被害金額はどのように推移しているのか。

③ クマと共存するための対応策と、被害に対する対策をどう考えているのか。



桜井 博義 議員

A1 ① 北奥羽地域に450頭生育しています。

② 8月末現在で、被害報告が32件あり、被害額は179万円。19年度は件数が29件、被害額が88万円と、本年度は高くなっています。

③ 登山道等へのクマ注意の表示や回覧版配布。目撃情報は速やかな連絡体制を敷き、猟友会に巡回強化を依頼しています。

A2 ① 生産資材の高騰には大変憂慮していますが、村単独では対応が難しいです。

② 米を減反しても米価は暴落し続けていますが、それでも減反政策は必要と考えるか。

Q2 ① 農産物価格が低迷する中、肥料・飼料等資材価格の高騰が続いており農家は悲鳴をあげていますが、早急な施策の考えを伺います。

② 米を減反しても米価は暴落し続けていますが、それでも減反政策は必要と考えるか。

生産資材高騰から支援策を

では解決できる問題ではないものと考え、既存の補助事業等を協議し、農家の負担軽減に努めています。

② 減反政策は避けて通れないものと認識しております。認定農業者の育成、関係機関と一丸となって体質の強い農業の確立を図ります。

水道事業の料金設定は

Q3 ① 少量利用者の下限を見直し、料金引き下げの実施は。

② 水道区域外の整備計画は。

③ 決算書の剰余金を、料金収入の額まで積立てる理由は何か。

A3 ① 財源確保の必要から全体の見直しを考えています。

② 総合的な見地から検討します。

③ 地震災害等の突発的復旧財源として、保有しています。